

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第十六主日礼拝 2020年9月20日

前奏：

招きのことば：詩編 145:1-8

わたしの王、神よ、あなたをあがめ 世々限りなく御名をたたえます。
絶えることなくあなたをたたえ 世々限りなく御名を賛美します。
大いなる主、限りなく賛美される主 大きな御業は究めることもできません。
人々が、代々に御業をほめたたえ 力強い御業を告げ知らせますように。
あなたの輝き、栄光と威光 驚くべき御業の数々をわたしは歌います。
人々が恐るべき御力について語りますように。大きな御業をわたしは数え上げます。
人々が深い御恵みを語り継いで記念とし 救いの御業を喜び歌いますように。
主は恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちておられます。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

私たちを愛し、憐れみをもって導き支えてくださることを感謝いたします。99匹の羊をおいて迷ってしまった1匹の羊を探し出して助けてくださる神様、わたしを見出してくださって感謝いたします。神様から離れて、人生の第1ボタンを留めないまま、土台のない歩みをしていました。何がわるいかもわからずにいましたが、あなたの方から私を見つけ出して、イエス様によって罪を赦し、あなたの子どもにしてくださいました。

どうか、あなたの恵みのもとにとどまらせてください。どうかあなたの愛と憐れみにもっと目を留めることができるように導いてください。どうかあなたの慈しみに満ちた目で、家族を、お友達を、世界の人々を見ることができるよう、私たちに愛を与えてください。

今朝もみ言葉のお約束の通り、私たちを赦し、新しくし、あなたの聖なるみ栄えにふさわしく歩ませてください。私たちの教会がいつもイエス様の赦しといのちに立ち返って、互いに愛し合い、励ましあい、高めあっていく交わりとして育てていただけますようにと祈ります。

新型コロナウイルスの感染拡大の心配を持ちながら、私たちは引き続いて慎重に新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹で力づけてください。今週も、私たちの遣わされている所で、御名のみ栄のために歩ませてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：フィリピ 1章 21-30節

わたしにとって、生きることはキリストであり、死ぬことは利益なのです。けれども、肉において生き続ければ、実り多い働きができ、どちらを選ぶべきか、わたしには分かりません。この二つのことの間で、板挟みの状態です。一方では、この世を去って、キリストと共にいたいと熱望しており、この方がはるかに望ましい。だが他方では、肉にとどまる方が、あなたがたのためにもっと必要です。

こう確信していますから、あなたがたの信仰を深めて喜びをもたらすように、いつもあなたがた一同と共にいることになるでしょう。そうなれば、わたしが再びあなたがたのもとに姿を見せるとき、キリスト・イエスに結ばれているというあなたがたの誇りは、わたしゆえに増し加わることとなります。

ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。そうすれば、そちらに行きあなたがたに会うにしても、離れているにしても、わたしは次のことを聞けるでしょう。あなたがたは一つの霊によってしっかり立ち、心を合わせて福音の信仰のために共に戦っており、どんなことがあっても、反対者たちに脅されてたじろぐことはないのだと。

このことは、反対者たちに、彼ら自身の滅びとあなたがたの救いを示すものです。これは神によることです。つまり、あなたがたには、キリストを信じるだけでなく、キリストのため

に苦しむことも、恵みとして与えられているのです。あなたがたは、わたしの戦いをかつて見、今またそれについて聞いています。その同じ戦いをあなたがたは戦っているのです。

福音書朗読：マタイによる福音書 20 章 1-16 節

「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。それで、その人たちは出かけて行った。主人は、十二時ごろと三時ごろにまた出て行き、同じようにした。五時ごろにも行ってみると、ほかの人々が立っていたので、『なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか』と尋ねると、彼らは、『だれも雇ってくれないのです』と言った。主人は彼らに、『あなたたちもぶどう園に行きなさい』と言った。

夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった。それで、受け取ると、主人に不平を言った。『最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとはい。』

主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる。」

讚美歌 313 番

1. この世のつとめ いとせわしく、人の声のみ しげきときに、
内なる宮にのがれゆきて、われはきくなり主のみ声を。
2. 昔主イエスの山に野べに、人をば避けて聞きたまいし
いともとうとき天(あま)つみ声、今なおひびく わが心に
3. 主よ、さわがしき世のちまたに、われを忘れて いそしむ間も、
ちさきみ声を 聞きわけうる 静けき心 与えたまえ。 **アーメン**

説教「気前のよさをねたむのか」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

私たちは自分の権利が奪われないように気を付けています。不当なあつかいをうけないでよいように権利を守ります。また、権利が踏みにじられると、みじめな気持ちになり、不平が口から離れず、人にやさしくできなくなることもあります。今朝開かれたみ言葉には、自分たちへの不当な扱いに怒りをぶちまけている労働者の姿があります。

イエス様は天の国についてたくさん教えてくださいましたが、今朝開かれたみことばは心にしみるとえ話ではないでしょうか。筋は通っているように見えるけれど、ほんとうにこのような不公平感を持つ人を放っておくのが天の国なのか、と何か釈然としない思いが残る人もいるでしょう。

収穫の時期を迎えたぶどう園で働いてくれる人を探して、主人はまだ日の出前の暗い夜明けごろからでかけて、ひとり一日1デナリ、という約束で雇いました。そのあと、9時ごろ、12時ごろ、3時ごろにも出かけていって「ふさわしい賃金をはらうから」と雇ってきました。さらにもうほとんど働く時間の残っていない夕方の5時ごろにも出かけていってブドウ園に行くように勧めました。まもなくみんな集められて賃金が支払われました。最後の5時の人が1デナリもらいました。3時の人も12時の人も9時の人も1デナリをもらいました。早朝から働いていた人はたくさんもらえると期待しその権利があると考えました。そして、1デナリだけをもらったとき、不満をぶちまけたのです。主人はその人を、友よ、と呼び、約束通りあなたには1デナリを渡したといい、報酬金額をはじめから伝えていなかったほかの人にも一日の生活が支えられる1デナリを渡したかったのだ、と言いました。

なぜ、このようなたとえをお話になったのか、といいますと、それは今日読まれた20章の前の章、19章のおわりに関係があるようです。ペテロは、お金持ちの青年が持てる財産に気を取られて天の国にはいることをためらったのを目の当たりにして、イエス様に「わたしは何もかも捨ててあなたに従ってきました、ついては何をいただけるのでしょうか」と尋ねました。イエス様に弟子となるように招かれて、漁師であったペテロはたしかに舟も網も捨ててイエス様だけに従って立派に歩んできていたからです。

私たちの神様は、私たちを愛し、憐れんで、私たちの罪を赦し、私たちに新しい命を与えて日々必要なものを与え、喜びのうちに生きがいをもって過ごすことができるようにしてくださいませ。しかし、いつの間にか人と比べて自分が忘れられ、その権利が踏みにじられてしまう恐れにとらわれるのです。

ここでイエス様がこのたとえによってペテロに教えたかったことは何でしょうか。権利を主張し不平を言う雇人に対して「友よ」と呼んでいる主人のように、イエス様はペテロを大切な人

だと思っておられます。そしてペテロにもすべての必要なものを与えてきたこと、また、ほかの人々にも同様に必要なものを与えたいという主人の気持ちも伝えています。

最初に雇われた人々は1デナリは当然だ、しかしほかの人と同じく1デナリの報酬をもらうのなら自分たちはもっともらって当然だ、と考えました。そう思う気持ちもよくわかります。しかし、イエス様はペテロに、自分が神様からどれだけの祝福をいただいているかを見ないで、神様が他の人々にどのように祝福してくださっているかを見て、恵み深い神様のことを喜んで、その神様に人々が祝福されたことを自分のことのようにお祝いするというよりも、自分が神様に不当に取り扱われたと訴え、自分は当然の権利を踏みにじられた犠牲者と思い込んでふてくされてしまいやすいことを見せてくださっているのです。幸せの基準が人との比較の上にある姿です。

確かにペテロは一生懸命にイエス様に従ってきました。そして、世の救い主であるイエス様のそばでともに歩み、教えを聞き、奇跡を見て、イエス様に遣わされてみ言葉を伝えたり人々を助ける働きをしてきました。そこに喜びがあり、もっと成長してもっと人の役に立ちたい、と一心に歩んできたのです。しかし、金持ちの人と自分をくらべて、自分はイエス様に従ってきた、それもすべてささげて従ってきた、だからあのイエス様に従うことのできなかつた金持ちの青年よりも、もっと多くのものをイエス様からいただいて当然だ、と思ったのでした。このたとえを聞いてペテロは自分が受けてきたイエス様の恵みをあらためて感じいったでしょう。

私たちはいかがでしょうか。イエス様からいただいている、どんな財産をつんでも得ることができない、とつても価値のある罪の赦しと永遠のいのちをどのように受け止めておられますか。たとえの中で主人が一日に何度も何度も足を運んで、仕事を与えるために人を探し歩いたように、イエス様はわたしのところに何度も何度も来てくださって、み言葉によって私を導いてくださいます。また、人々がぶどう園で働いたように、私たちも神様がおつくりになったこの世界にあって、身近な隣人に役に立っていく使命をお与えくださっています。私たちを信頼してその召しを与えてくださっているばかりか、持ち場にふさわしく必要なものを備え、私たちがいろんな体験を通して成長させ、いつも励ましあって歩める仲間を与えてくださっています。このイエス様に私たちも感謝して、このイエス様を罪からの救い主としてだけでなく、私たちの主としてあおいで歩んでいるのです。

ペテロは他の弟子たちのことが気になっていたようですが、イエス様は、イエス様を信じている兄弟姉妹がそれぞれに豊かに祝福された歩みができるようにと導いてくださるよい羊飼いです。すべての雇人に1デナリを与えてくださいました。

また、イエス様はまだイエス様をご存じでないすべての人が救われて永遠のいのちに至ることを願っておられます。イエス様はいろいろな方法を通して、み言葉と触れる機会をもってイエス様の与える罪の赦しにあずかるようにとお招きくださるのです。主人は夜明け前から出かけて誘い、夕方のぎりぎりの時間まで出かけてぶどう園に招いています。

そうだったら、私たちの喜びましょう。人の幸せを見て、ほんとうによかったね、私たちの神様はすばらしい方ですね、と一緒に喜びましょう。また、まだ恵みのイエス様をご存じでない方にお伝えしましょう。お招きしましょう。イエス様が招いてくださいます。私たちも一緒に歩むことができることを喜びましょう。

また、そんなすばらしいイエス様を知ることができ、救い主として、また主としてあおぐことができたのですから、自分に与えられている召しに喜んで励みましょう。がんばったら頑張った分、人よりたくさんの報酬を得ることができる、というような権利意識ではありません。むしろすでに与えられている神様の大きな大きな恵みを味わい、感謝をして、心いっぱい祝福されて、よろこんで召されたところで人々を愛し支えて歩んでいこうではありませんか。自分中心なのに満たされない、そんな生き方から救い出されて、ほんとうに人の役に立つ生きがいの人生に導かれたのですから、イエス様と同じ視点で人々を愛してはつらつと喜びをもって今週も歩んでまいりましょう。そして、9時、12時、3時、5時と続々と導かれてくる新しい人々と共に、喜びを分け合い、同じ恵みのイエス様に導かれて歩んでいきましょう。あとから来た方々が、先に主の祝福のゆたかさを味わって喜ぶことを祝福しながら、それをあなたの豊かさとして喜んで、ともに歩んでいきましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讚美歌 324 番 献金 献金感謝の祈り

1. 主イエスは救いを 求むるこの身に 豊けき恵みを 注がせたまえり。
 <繰り返し> いよいよわが主を 愛せしめたまえ。
2. 久しくそむきし この身を見捨てず、すべてを赦して 憐れみたまえり <繰り返し>
3. みめぐみ 受くべき いさおしなき身を かくまで恵みて 救わせたまえり <繰り返し>
4. この身とたまとを ことごとささげて 尊き御名をば ひたすらほめつつ <繰り返し>
 アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。**アーメン**

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわに絶えせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏